湖上祭・吉田の火祭り

富士吉田校舎事務長　井上 敏勝

夏休み期間中に富士五湖地区では、河口湖の「湖上祭」、「吉田の火祭り」が開催されます。「湖上祭」は、8月1日より富士五湖で連日開催される花火大会の最後を締めくくるものとして8月5日に開催され、例年多くの見物客が訪れています。今年は、東日本大震災の影響で花火大会を自粛するところが多く「湖上祭」も開催が危ぶまれましたが、関係者の尽力により開催にこぎ着けることができました。昭和大学は、第95回「湖上祭」に初めて協賛し、大学の理念「至誠一貫」の精神に則り“まごころ”をこめてと題して大玉花火の15連発と大スターマインの青と白を基調とした誠実さや温もりの感じられる花火を河口湖の夜空に打ち上げました。

「吉田の火祭り」は8月26日、27日「鎮火祭」として北口本宮富士浅間神社と諏訪神社の両社の秋祭りとして行われています。26日午後、本殿祭、諏訪神社祭が催行されます。大御輿、御影（富士山の形をした御輿）が参拝者で賑わうなかを神幸、暮れ方に御旅所に入ると金鳥居から神社までの通りに置かれた約70の松明に火が入れられ、街中は火の海と化し、祭りは最高潮に達します。「吉田の火祭り」は松明を焚くことにより富士山の鎮火を祈ると共に富士登山の無事とご利益とに感謝して行う祭礼と言われています。

昭和大学は毎年松明の寄進を行い「吉田の火祭り」に貢献しております。宵闇迫る頃、本学が寄進した松明に小口理事長が火を入れ、片桐学長はじめ多くの教職員とともに火祭りを楽しみました。今年は学生が在寮中のため「吉田の火祭り」を見に多くの学生が出かけましたが、あいにくの雨のため充分に楽しむことができなかったことが惜しまれます。

富士吉田校舎での生活も残り少なくなりましたが、将来の知的専門職としての成就を目指して、旗の台校舎、長津田校舎での学習に励んでいただきたいと思います。

■ ポートランド州立大学サマープログラム

平成23年度夏期国際交流研修が7月25日（月）から8月22日（月）の29日間オレゴン州のポートランド州立大学で行われました。今年は医学部6名・歯学部6名・薬学部8名・看護学科3名・理学療法学科1名・作業療法学科1名の計25名が参加し、私は8月1日（月）から8月5日（金）の5日間、富士吉田教育部教務課スタッフとして初めて引率をさせていただきました。

引率中は、2クラスに分かれての語学研修や医療施設見学・医療に関する講義（米国医療の現状・リーダーシップコンセプトについて）・最終的に発表を行うためのパワーポイントの講義を受講しました。学生は熱心に施設見学や勉学に励み、現地の方々と積極的にコミュニケーションをとっていました。また、研修以外でも、シアトル観光やマリナーズVSアスレチックスの大リーグ観戦があり、海外で活躍されているイチロー選手と松井選手を応援することができ、とても興奮しました。

前半の2週間はホームステイ、後半の2週間はキャンパス内の寮生活でしたが、大きなトラブル等もありませんでした。研修中は有意義な時間を過ごし、貴重な経験ができたと思います。また、現地のスタッフもとても気さくな方々ばかり。学生の面倒をよく見て下さったので、おかげで安心して生活を送ることができました。

今回の研修を通して英語のコミュニケーション能力も高まり、医療に関する視野も広がったと思いますので、この経験を今後の学生生活に活かせるよう期待しています。

教務課　渡辺祐香

■ 授業探訪（体育・集中講義）

健康スポーツ科学教室では、スポーツを楽しむなかでコミュニケーション能力を高め、生涯楽しむことができるスポーツを探すことを目的として、後期授業に「健康とスポーツの科学」を開講しています。学生は自分の好みに合わせてスポーツを選びますが、このうち「ゴルフ」、「乗馬」、「スキー・スノーボード」の3種目は、長期休暇を利用し学外施設での集中授業として実施しています。

「ゴルフ」は、ショートコースも併設している千葉県成田市の練習場で、学生10～15名に一人のコーチをつけ、クラブのグリップから学んでいきます。最終日は4人一組でショートコースをプレーし、スコア順に上位3チームにはささやかながら賞品を渡しており、コンペ大会の雰囲気も味わいます。クラブは開講の際に同窓の方々に寄贈していただいたもので、ハーフセットに組み直して使用しています。

「スキー・スノーボード」は唯一ウインタースポーツとして取り入れているものです。スキーは昔から大学の体育種目としては人気がありますが、近年はスノーボードも実施しています。スノーボードを取り入れる学校はまだまだ少数ですが、学生のニーズは高く、毎年抽選となっています。

「乗馬」は2011年度より開始した新しい種目で、近年いくつかの大学の体育科目で乗馬が取り入れられ、人気が高いことから本学でも実施することにした種目です。幸いにも本学には馬術部があり、部長をはじめ監督、コーチのサポートを受けつつ富士吉田の馬場と八ヶ岳の乗馬クラブとで実施しています。

また傷害予防策の一つとして、スノーボードでは手首にテーピングを義務づけており、乗馬ではプロテクターヘルメットを着用し、安全教育にも力を入れています。

健康スポーツ科学教室　教授　堀川浩之

■ 昭和42年入学同期会植樹

平成23年9月19日、昭和大学に昭和42年入学の医学部・薬学部同期会により、富士吉田校舎エネルギー棟（食堂ラウンジ）脇へ“大山桜”の植樹がおこなわれました。すでにきちんと根付いている様子で、来年度の新入生入寮後にはソメイヨシノより紅の強い、美しい花を咲かせてくれることでしょう。

編集委員　高田中成

編集後記

いよいよ冬本番、富士山の冠雪も定着し、師走も大詰め、新年の足音が聞こえる季節となりました。今年は学事歴の変更があり、例年は正月明けの帰寮のあとに後期試験となる学生たちが、年末で後期試験を終え完全退寮することとなりました。

さて、『白樺・百合』もおかげさまで発刊から約四年が経過いたしました。今号は夏期休暇明け以降、初年次体験実習を含め、学生主体の一大イベントである“クリスマスパーティー”までを記事とさせていただいております。昨年度と同様にボリュームを6ページに増やし、各々の行事を充実した内容でお伝えできるようつとめましたが、それを感じていただければ幸いです。今後とも『白樺・百合』をよろしくお願いいたします。

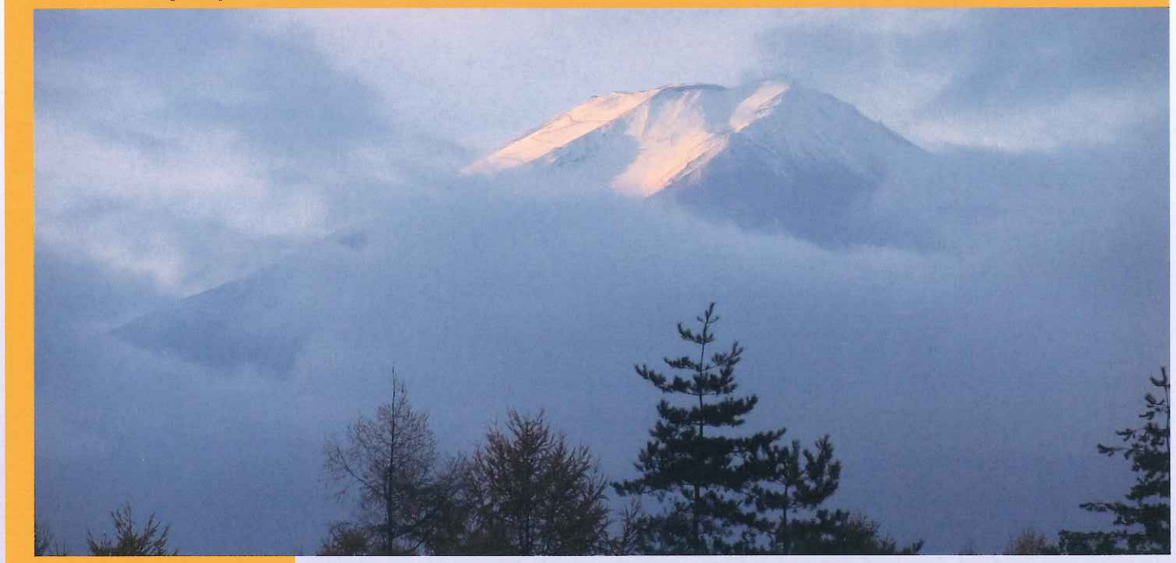
編集委員　高田中成

大学では学生の国際交流を推進するため、海外実習・研修補助制度を設けて積極的に支援しています。

白樺・百合

昭和大学
富士吉田キャンパスだより
第14号　2011.12.21 発行

発行責任者　富士吉田教育部長　片桐　敬
編集責任者　富士吉田教育部広報委員長　倉田知光
〒403-0005　山梨県富士吉田市上吉田 4562
TEL 0555-22-4403



歯学部　井上結衣（明治学園高等学校出身）撮影

全寮制度の利用方法

SGSセンター管理人　**綿谷 ウメ**

SGSC（Small Group Study Center）は、女子寮（1974年 ゆり寮と改名）として1967年度から1989年度まで、男子寮（1974年 しらかば寮と改名）として1990年度から2009年度まで、アイディアの宝庫である頭脳をひっさげてやってきた青春真っ只中の若者たちのセカンドホームとして貢献した建物です。現在、富士吉田キャンパスでは最古のこの建物を、思う存分勉強に使ってもらおうと名称を再々度改め、SGSC として2010年4月にオープンしました。現在は週一度行われるPBL授業やレポート作成、小テストや定期試験など自学自習の場として用いられています。利用する学生は、お互いに必要な知識を補完し合うなどし、学力の向上に努めています。

さて、今後の課題はSGSCの利用率の更なる向上です。富士吉田での大学一年次は、専門家になる下地を作る時期です。人の心を持って、患者に人間として向き合ってくれる医療人を、患者は求めているはずです。9月におこなわれた初年次体験実習で病院や施設にお世話になり、学生もそれを多少なりとも感じ取ってきたと思います。せっかく感じてきたものをもっと掘り下げ、もっと深く意識のなかに染み込ませる作業を、彼等にここで学んで欲しいのです。自由な発想で、自由な気持ちで勉強できるための場としてSGSCがあります。あくまでも学生主体で、彼等がテーマを考え、調べ上げ発表する。彼等が今現在興味を持っている事柄を取り上げ、考えを巡らせ追求する癖が身につくよう、より一層の環境作りをしていくことで必然的に利用率が上がっていくでしょう。

難関を突破し、第一目標をクリアした学生が、一年間、集団で青春を楽しむことができる寮生活。思いっきり遊ぶのも結構、適度ないたずらも結構。しかし、私たち教職員は、昭和大学建学の精神である「至誠一貫」を体現できる“人間味”のある学生を育て、輩出する責務があります。SGSCという施設の管理を介し、その一助となればと思います。

広報誌名称について

全寮制を特徴とする富士吉田校舎学生寮は「白樺寮（男子寮）」「百合寮（女子寮）」の二寮からスタートました。「赤松寮」「すみれ寮」を加えて四寮となった現在も、白樺・百合という名称は受け継がれています。この名を冠した「白樺・百合」という広報誌の名称には、過去・現在・未来の学生たちが日ごとに成長をとげて前進しつつも、常に初心を忘れず、伝統を受け継いでくれることへの願いが込められています。

初年次体験実習

医学部　小野 真里花（公文国際学園高等学校出身）

9月12日から9月29日にかけて、初年次体験実習が行われました。初年次体験実習とは医療や福祉に関わる現場を体験させていただく機会、また、救命救急法の会得を目的とした講習などを含んだ実習のことです。実習の多くは4学部混成の5人グループで活動し、このグループでは病院での実習と、福祉施設または支援学校での実習を行いました。

病院実習では、様々な職種の方の下でそれぞれの仕事について教えていただきました。各職種についてはわかっているつもりでいましたが、実際に接することで、今まで知らなかった役割や仕事を認識することができました。また、現場での仕事や緊張感に触れることもできたので、医療に対する漠然としたイメージを自分の目指す職業としての実感に変えるきっかけをつかむことができたと考えています。

施設実習では、あまり接したことのなかった方々と交流する機会を多くいただきました。最初は戸惑いましたが、実習を行っていくうちに、コミュニケーションの基礎の大切さや、コミュニケーションの多様性を知ることができ、これを転機として利用者の方との交流が楽しくなるとともに、利用者の方のことをより深く知ることができた、と感じています。

今回の実習では、将来医療従事者になる者としての自覚、そして、これからに必要なことの発見や認識につながり、今後医療人を目指していくうえでの重要な指針を得ることができたと考えています。また、4学部合同で実習を行ったため、医療従事者間のチームワークのあり方について考える機会ともなりました。

初めての実習であり、戸惑うことも多くありましたが、病院や福祉施設、支援学校などの職員の方々、昭和大学の先生方、そして患者様や利用者様のご理解やお力添えによって、短い期間の実習であったにもかかわらず、とても多くのものを得ることができました。今回の実習をご支援くださったみなさまに、この場をお借りして心からのお礼を申し上げます。

病院実習

救急法

施設実習

BLS講習（心肺蘇生法とAED）

クリスマスパーティー開催!

クリスマスパーティー実行委員長　歯学部　**大澤昂史**（法政大学第二高等学校出身）

いよいよ富士吉田に本格的な寒さが訪れ始めたころ、今年のクリスマスパーティー（以下クリパ）は開催されました。クリパでは様々な団体が練習したものを披露するという企画が多く、クリパまでの連日、夜中にまで及ぶ必死の練習がなされていました。その光景を見るたびに私は大きな期待感を抱いていました。それと同時に使命感や責任感によるものなのかもしれませんが、何よりもこの努力を無駄にさせることだけはしてはならないと感じていました。

そのイベント企画では各団体の必死の努力を物語るような非常に完成度の高い出し物ばかりであり、大変盛り上がっていました。そんないきいきとした様子を見て、本当に実行委員長を引き受けてよかったなと感じました。

花火・イルミネーションなどもとても好評であり、私自身も非常に感動しました。特に冬の夜空一面に広がる花火は、凍えるような寒さを忘れさせ、思わず感嘆の声が口からこぼれるほどでした。

委員会の業務としては、うまくいかない話し合いももちろんありましたが、そういうときこそまわりに助けられ支えられてどうにか乗り越えることができました。支え合っていくことの重要性を今回の経験でまざまざと見せつけられました。このような経験を今後の人生の糧にしていきたいと思っています。

最後に今年のクリパでも先生方、教務課の方々、食堂の方々、ボイラーの方々、そして今年のクリパをとても楽しいものにしてくれた学生のみなさんなど大変多くの方にお世話になりました。

本当にありがとうございました。

点灯式

前後夜祭部門長　理学療法学科　**坪井良洋**（福島県立安積高等学校出身）

節電のための日程変更により、今年のクリスマスパーティーは例年よりも早めの開催となりました。昨年までは別々に行われていたイルミネーションの点灯式も同時に行われ、新たなことに取り組んだクリスマスパーティーだったと感じています。前後夜祭部門では、前夜祭と後夜祭、さらに花火も担当しました。やらなければならないことが多くあり、当日までに準備が終了するかどうかとても不安でした。準備期間中は、前夜祭・後夜祭の日程調整がなかなかうまくいかず、正確な日程の作成が遅れてしまいました。それにより、部門員の意思統一が遅れてしまい、部門員の人たちにはとても迷惑をかけてしまったと思っています。また、各有志発表団体や音響業者さん、花火業者さんなど多くの人たちとの話をまとめることにも、とても苦労しました。自分に至らない点が多くあり、クリスマスパーティーまでに多くの人に迷惑をかけてしまい、非常に申し訳ないと感じています。

しかし、クリスマスパーティー本番では、部門員をはじめ多くの人たちの協力の下、大きな時間のずれもなく無事に前夜祭・後夜祭を終えることができました。また、予想をはるかに超える多くの人たちが前夜祭・後夜祭に参加してくれて、今まで準備してきてよかったと感じることができました。とても有意義な時間を過ごせたと実感しています。

最後になりますが、全前後夜祭部門員、音響業者さん、花火業者さん、その他、前後夜祭開催にあたって協力をしていただいた全ての人たちに感謝の意を示したいと思います。本当にありがとうございました。

地域交流

クリスマスパーティー実行委員
薬学部　**森　結香**（静岡県立三島長陵高等学校出身）

クリスマスパーティーに際して、私は障がいを持った児童、生徒に対してのレクリエーションを行いました。高校生のとき、よく小学生に対してレクリエーションなどを行うリーダー研修を受けていたため、レクやそのほかサタデークラブの計画などは、苦もなくできました。本番のレクリエーションも、いつも小学生に向けてやっていたように楽しめればいいな、という気持ちでいました。もちろん子ども全員に気を配ることは忘れないようにし、離れている子がいれば、声をかけるなど心がけようと思いました。

クリスマスパーティー当日、子どもと遊べるということで、ただただワクワクしていました。顔合わせでも、はしゃいでいる子どもがたくさんいて、可愛いな、と見守っていました。とても盛り上がる会となりましたが、同時に、障がい児と向き合うことの大変さを、身をもって体験させていただきました。今後医療人となれば、ますますさまざまな病を持った人と出会うことになりますが、今回のことを生かせればよいと思います。